

令和6年度コミュニティ・スクール推進研修①実施報告

実施日：令和6年7月12日

◎ 当研修では、教職員と地域住民が学校運営に協力・参画することで、教育に対する課題や目標を共有し、一体となって児童・生徒を育む学校づくりを推進するために必要な知識や技能の習得を図ります。第1回は、54名の方が御参加くださいました。

○ 講話「コミュニティ・スクールって何？～基礎から学ぼう CSの世界～」

文部科学省総合教育政策局 政策課企画官 廣田 貢 氏

今回の講話では、コミュニティ・スクールという仕組みの概要やメリット、学校と地域の連携・協働を進めるポイントについてお話しいただきました。学校運営協議会は、学校と地域がビジョンや課題、情報等を共有し、熟議し、意思を形成する場であり、学校と地域が相互に連携・協働していくための基盤であると話されました。コミュニティ・スクール導入は、子どもたちや学校、地域の関係者全員に効果があり、その実践事例を具体的に示されました。



また、学校と地域の連携・協働を進めるには、地域と学校がお互いに「当事者」となり、共通の目標に向かっていくことが大切であり、おかげ様、お互い様の関係をつくる必要があると述べていました。応え合いタイムでは、学校、地域、行政のそれぞれの立場から意見交換を行い、コミュニティ・スクールに対するモヤモヤや学校と地域の協働を進めていく上で大切にしたいことなどを話し合いました。誰かが何とかしてくれるのではなく、自分たちが「当事者」として、自分たちの力で学校や地域を創り上げていってほしいという講師の思いが伝わってくる講話でした。

○ 協議「講義を通しての気づきについて共有しましょう」

○ 全体の振り返り

受講者はグループごとに協議を行いました。廣田企画官の講話について感想の共有を行い、講話から新たに得た知識や気づきを伝え合いました。その後の全体の振り返りでは、「マイチャレンジシート」に今日の学びを踏まえて、自分が取り組みたいことや心に決めたことを書き、交流を図りました。「マイチャレンジシート」には、「自分事と考えて行動する」「地域を知り、学校運営協議会の基礎づくりをする」「地域の方とより積極的にコミュニケーションをとり、学校と地域の協働についてジブンゴトとして応え合えるようにしたい」など、前に一步踏み出したいという受講者の思いが書かれていました。コミュニティ・スクールについて、どのような取組をしていけばいいのか、改めて考える時間となりました。



★ 受講者の声 ★

- ・自分の役割をしっかりと自覚して、もっとCSについて学びを深め、それを市町の関係する方々に広めたいです。
- ・研修内容の周知等の活用だけでなく、研修の進め方もとても参考になりました。
- ・これまで迷いがあったところに答えをもらえました。やってみようという思いになりました。特に、地域の方との交流（意見交換）は、大きな学びとなりました。
- ・いろいろな立場の方と意見を交換し、現状を話せたことが良かったです。行政職員としての仕事に活かしたいです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL: 028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp